

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域ブランド「市田柿」の発信による地域活性化
事業主体 (連絡先)	市田柿活性化推進協議会 飯田市東東281
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,327,248 円 (うち支援金: 1,861,000 円)

事業内容

令和3年に販売開始100周年を迎えた飯田下伊那特産の「市田柿」を、次の100年に繋げるためPR活動・食育活動を実施した。

- ・市田柿ラッピングバスの運行
4月～、新宿・名古屋・大阪・県内便
- ・市田柿写真・絵画コンクール
11月～12月、写真42点、絵画127点
- ・市田柿ストーリーブックの配布と食育事業
10月、南信州管内中学生4,795部配布。2校で食育事業実施。
- ・「市田柿ってなあに？」パンフレットの配布による食育事業
12月～2月、保育園児3,269名に配布。3園で食育事業実施。
- ・市田柿レシピの考案
11月～2月、高校生・短大生によるレシピ考案、6品考案。



【ストーリーブックを活用した食育の様子】

【目標・ねらい】

- ①全国に向けた「市田柿」ブランドの発信・PR活動
・認知度向上
- ②地域文化継承に向けた食育

事業効果

- ①支援金を活用して「市田柿」ラッピングバスを増台したことにより、コロナ禍で運行本数が減便となる中で、効率的に消費地に向けて市田柿をPRすることができ、認知度を向上させることができた。R2から継続した事業のため、ラッピングバスを見かけたという声もいただいた
- ②中学生に対する市田柿ストーリーブックの配布、小学生・一般による市田柿写真・絵画コンクールの作品募集、園児に対するパンフレットと市田柿個包装の配布、レシピ考案を通して、幼少期から市田柿を知り、触れて、食べる機会を設けることができた。ストーリーブックは中学生以外からも欲しいという要望を多数いただいております。今後の配布に向けて準備を進めている。市田柿を初めて食べた園児から「甘くておいしい」と感想をいただき、生産者の生産意欲の向上に繋がっている。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・ラッピングバス事業を継続実施したことで、引き続き消費地に向けPRできた。
- ・幼児から高齢者まで様々な方法で市田柿に興味を持ってもらう機会を作ることができ、地域文化の継承に繋がった。
- ・コロナ禍により計画した事業が一部中止となったが、市田柿に対する反響を大きく感じた。

今後の取り組み

今後、継続的に地域ブランドである「市田柿」を全国に向け効率的に発信していくために、PR範囲の拡大・継続した食育活動のための準備を行う。市田柿PR動画を作成し、市田柿販売店舗やYOUTUBEで活用し更なる認知度向上に向けたPR事業を展開する。ストーリーブックのデータをもとに市田柿の歴史や栽培加工方法をまとめた動画を作成し、管内小中学生はもとよりYOUTUBEを活用して全国に向けた食育活動を実施する。また、市田柿の新たな食べ方提案による消費拡大に向けて、高校生・短大生が考案したレシピとフードコーディネーターが考案するレシピを掲載したレシピブックを作成し、販売店舗で配布する。レシピブックを活用した料理教室も計画し、市田柿の新たな食べ方提案をしていく。今後も市田柿を全国・世界に発信していくために、市田柿の食べ方提案等の認知度向上・消費拡大に向けたPR活動、後継者不足解消・消費拡大に向けた食育事業に取り組んでいく。